

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和6年11月15日（金）
- 2 確認箇所
西門研修棟休憩所
- 3 確認項目
構内走行サーベイの実施状況
- 4 確認結果の概要

東京電力では、福島第一原子力発電所構内の作業環境を改善するために、多くの作業員が作業するエリアで、フェーシング^{※1}による線量低減を実施している。また、東京電力では実施した線量低減対策の効果を確認するために、3か月に1度、走行サーベイ^{※2}による構内の線量率を測定していることからその状況を確認した。（写真1）

- ・走行サーベイは、運転手（運転席）、ルート案内者（助手席）、線量データ確認者（後部座席）の3名で行われている。
- ・東京電力によると走行サーベイのルートは、道路の交通規制等で通行止めになる場合があるため、毎回同じルートを走行するのではなく、1日かけて主要道路を回ることになっている。この日は、午前中に33.5m盤周辺^{※3}と5、6号機周辺、午後から1～4号機周辺の走行サーベイを行う予定であるとのことだった。
- ・線量計は電離箱式サーベイメータを使用しており、ダッシュボードに固定されていた。また、測定した空間線量率は、パソコンにリアルタイムで表示され、GPSのデータと照合し、構内の空間線量率マップのデータに加工される。（写真2）
- ・線量計の校正日や、構内車両許可日は、有効期限内であった。（写真3）
- ・走行サーベイは毎年4回実施しており、今年度は2月に実施予定である。（6月、9月、11月実施済み）
- ・東京電力によると昨年度行った走行サーベイの結果（2023年2月測定データと2024年2月測定データとの比較）から、高温焼却炉建屋西側及び南側の道路において線量率の低下が確認されている。

※1 フェーシング

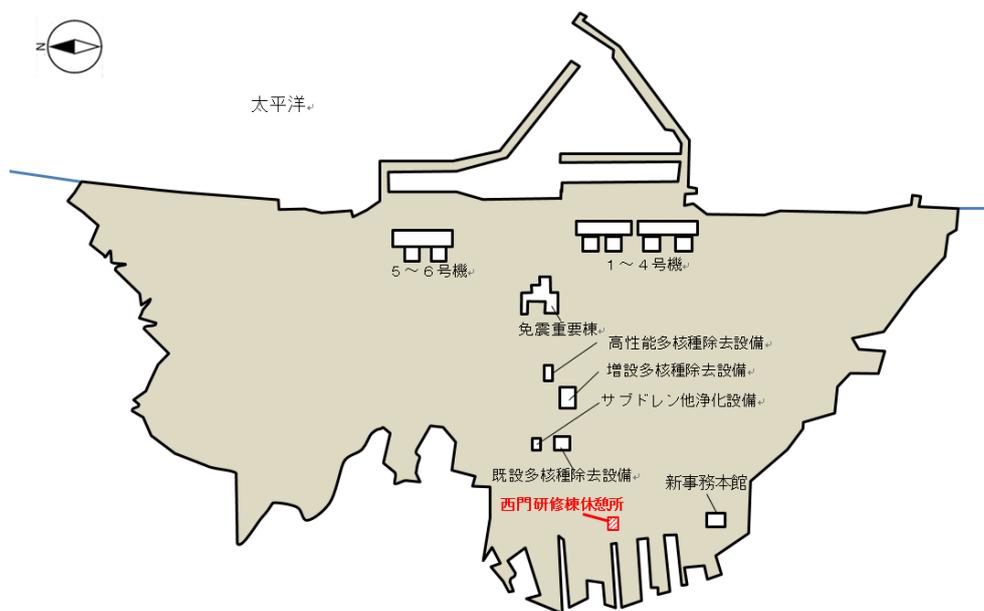
雨水の地下浸透を抑制し、建屋への地下水流入量の低減を図ることを目的に実施する構内の地表面をアスファルト等で覆う工事。

※2 走行サーベイ

車両に測定器を搭載し、同時に位置情報を自動的に記録することで、走行しながら線量率を確認することができる。そのため、広い範囲に対して効率良く空間線量率の測定が行うことができる。

※3 33.5m盤

数字は福島第一原子力発電所における海拔を示しており、○m盤とはその高さの土地を示している。33.5m盤は免震重要棟がある場所。1～4号機原子炉建屋がある場所は8.5m盤、1～4号機海側の護岸は2.5m盤である。



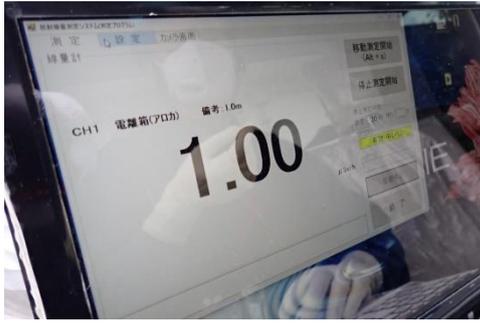
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
走行サーベイ時に利用する車の状況



(写真2-1)
線量計の状況



(写真 2 - 2)
測定した空間線量率の状況



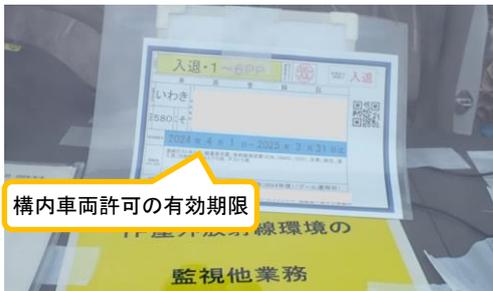
(写真 2 - 3)
GPS の状況



(写真 2 - 4)
構内の空間線量率マップの状況
(令和 6 年 9 月測定時)



(写真 3 - 1)
測定器の線量構成記録



(写真 3 - 2)
構内車両許可の有効期限

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。